

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所〔担当：伊藤・永島〕
TEL:0853-22-6772 FAX:0853-24-3342
(島根県農業技術センター資源環境研究部病虫科内)

平成25年度 病害虫発生予察情報 注意報第2号 (ナシ黒斑病)

平成25年6月24日
島根県病害虫防除所

ナシ黒斑病が「二十世紀」で平年と比べて多く発生しており、一部では多発ほ場も確認されています。向こう一か月の気象も平年と比べ気温が高く、降水量も多いと予想されており、病勢の急速な進展が懸念されますので注意報を発表します。現地ではほ場の発生状況を把握し、防除の徹底をお願いします。

記

1. 作物名 ナシ（品種：二十世紀）
2. 病害名 黒斑病
3. 発生地域 「二十世紀」栽培地帯
4. 予想発生量 多い
5. 注意報発表の根拠

- 1) 6月21日の調査では、平均発病葉率は13.2%（平年5.8%）と過去10年間で最も高い。
- 2) 一部では多発ほ場が認められる。
- 3) 向こう一か月の気象も平年と比べ気温が高く、降水量も多いと予想されている。

6. 防除対策

- 1) 感染防止のため、薬剤による防除を徹底する。
- 2) ほ場内の風通しを良くするため、下草管理を行う。

7. 薬剤防除

- 1) 使用する薬剤については、島根県農作物病害虫雑草防除指針及び防除暦を参照し、使用基準を遵守する。
- 2) 梅雨期間中の降雨によって新梢葉の発病が増加するので、7～10日ごとに散布を行う。
- 3) 薬液が新梢先端まで十分かかるように丁寧に散布する。

8. その他（病害に関する情報）

- 1) ナシ黒斑病の特徴
ナシ黒斑病とは、*Alternaria kikuchiana*（アルタナリア キクチアナ）というかびの一種によっておきる病害で、特に「二十世紀」では発病しやすく、重要病害である。
 - (1) 症状
葉、果実、新梢などに発生する。葉では黒色の斑点ができ、しだいに拡大して同心輪紋状の不正形病斑をつくり、やがて落葉する。幼果では小斑点ができ、果実が肥大するとともに急速に拡大して、亀裂ができてやがて落果する。成熟果では同心輪紋状軟腐病斑をつくる。
 - (2) 伝染方法
病芽、枝病斑及び罹病落葉で越冬し、3月下旬頃から胞子をつくり始めナシの生育期間を通じて伝染源となる。風雨で飛散した胞子は葉、果実、枝から侵入感染して発病する。さらに病斑上に新たな胞子をつくって二次伝染する。
- 2) ナシ黒斑病で行われる主な防除対策
 - (1) 一次伝染源となる病芽、枝病斑及び罹病落葉を除去する。
 - (2) 果実への感染を防ぐために袋かけが遅れないようにする。
 - (3) 施肥の適正化等により遅伸び及び二次伸びをさせないようにする。
 - (4) ナシの生育期間中の薬剤防除が必要であり、特に5月の小袋かけ前から袋かけ中と梅雨期の防除が重要である。

